

高校3年生法政大学推薦内定式 校長あいさつ

1. 進路に悩み、頑張った自分を褒めてあげてください。

2. 対話から生れる「気づき」を大事にしましょう。

大学は社会をよりよくする研究機関です。聞き合う、考え合う対話を大事にしましょう。「ここならいてもいいな」と思える場所でないと、のびのび考えることはできません。「ここなら話せる」場をつくれれば問いが生れ、それがとんでもなく面白いです。「こんなことを言ったらばかにされる」「人を傷つけちゃうかも」「自分が傷つくかもしれない」と対話を遠ざけず、ここなら話せると思える場をみんなで作っていきましょう。「みんなで」というと誰かが作ってくれると他人任せにするのはまずい、自分の安全な場所はまず自分で実感する。「感情の筋トレ」さえしっかりできていれば、どんな時代でも、どんな場所でも、安心安全っていうのはつくれます。自分が思ったことを話せる安全な場を作って、対話を大事にしましょう。

3. 世界を生き抜く力、俯瞰する目

昨日 GIS 学部長 福岡賢昌（ふくおか たかまさ）先生が、高校1・2年生希望者に向けてお話された内容を要約して紹介します。テーマは VUCA の時代といわれる変化が激しい不確かな時代を生き抜くためには、将来、どのような知識、教養、スキル、マインドセットが必要か、大学生活をどのように過ごせば良いかでした。必要なスキルは課題解決より課題発見「気づき」です。現代の課題は日本だけでは解決できず地球規模で俯瞰する目が必要です。インド・中国の人口は 14 億、アフリカも人口が急増し世界では増加しているのに対して、日本の人口は 1 億 2 千万人から減り、少子高齢化により経済力が低下し海外からの流入が増えるでしょう。日本のあうんの呼吸、空気を読む文化はいったん置いて、多い、少ないという主観的な形容詞ではなく数字を用いて論理的に説明する力が必要です。しかし論破するのではなく、異文化を持つ人と共感して巻き込んでいくコミュニケーション力が大事です。本校の生徒の皆さんが受けた教育、文理融合が大事で、数学や英語のさらなるレベルアップに努めた方が豊かな人生を送ることができます。数学や英語の力、幅広い知識と教養を身につけてグローバルな社会を生き抜きましょう。

4. お金は人を狂わせる

江戸時代前期の俳諧師 井原西鶴は「人は化け物」人ほどこわいものはないと言いました。今話題の言葉はキックバックです。新聞では「還流」と訳されますが、国語辞典を見ると「袖の下や賄賂」とズバリ説明しています。キックバックされた人が何に使ったのか、説明責任が問われます。私達教員も生徒保護者に説明できる行為であるか、立ち止まって省察したいです。皆さんも人を見る目を養い、お金に惑わされないよう十分に気をつけてください。

以上